
あの世

鬱死世-ウツシヨ-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの世

【Nコード】

N2573I

【作者名】

鬱死世・ウツシヨ・

【あらすじ】

津波で死んだ男のはなし。

```
- - r G C N y 8 F 8
Content-Type: multipart/altern
ative; boundary="AbtpgA7H"
- - AbtpgA7H
Content-Type: text/plain; char
set"iso-2022-jp"
Content-Transfer-Encoding: 7bit
```

プロローグ この世

「臨時ニュースです。関東地方に地震と津波が襲いました。震源地付近では震度？弱、死者は推定で八百万人にもものぼるとみられています。では被害状況をご覧ください…」

一章 あの世

「どこだ…ここは？」

気がつくと真つ黒な世界に横たわっていた。

辺りを見回したが何も無い。着ているはずの服すらも…

「俺は一体…？」

必死に何が起こったのか思い出していた。

「大地震があつて津波から逃げて…それから？」

「津波に…飲み込まれた…？」

そう思ったが声を出して否定した。

「いや、まさか、それは無い。ちゃんとしっかり生きてるし……え？」

「体が透けてる!？」

体を通して黒い世界が見えていた。

頬をつねったが痛みはない。いや、そもそもつねれていない。手が自分の頬を通過していた。急いで手をあわせてみた。

「え!？」

右手が左手を通過した。

「夢だ!これは現実じゃない!」

半分狂ったように叫び続けた…。

二章 創造

死を薄々受け入れた男は疲れきった顔をしていた。

「眠い…」

そして、そのまま眠りについた（正確には目をつぶった）。

子供の頃遊んだ公園を思い出した。

「懐かしいな…。よく遊んだな。」

ふいに風が吹いた気がして目を開けた。

「え?ここって…」

昔遊んだ公園そのものが目の前にあった。

「な…何で？」

自分が死んだかもという事を忘れた。驚きと戸惑いがそれを越えたからだ。

しばらくそれをじつと食い入るように見ていた。しかし、ようやく冷静を取り戻し、ゆっくりと近づいて行った。

滑り台にそつと触れてみた。

「さわれる!何で!？」

そう。手にはしっかり滑り台の感触があった。

慌ててまた手を合わせてみた。しかし擦り抜けてしまう。

「あれ!？」

また滑り台に触れる。やはり触れた感触があった。

「どうなっただんだ!？」

再び冷静を無くした。

しかし、もう一度心を落ち着かせて、ブランコに乗り考えた。

「俺は最初何もない真っ黒なところにいた。それからこの公園を想像した。そしたらここに公園があった。…いや、できたのか？」

「つまり、この公園は俺の想像からできた…ってことは…もしかして！」

男は自分の実家を想像した。

瞬間、周りがある部屋に変わった。

「俺の部屋だ…」

そう、想像した所に行けるのだ。部屋を出て親を探した。

「おかしいな？外出するような人じゃないのに…」

いない。外に出て見回したが人の気配がしない。他の家にも誰もいない。

『

わたしの生命があつた場所ではない。自分が創つたのだ。』
いきなり頭の中に声が響いた。不思議とその声のぬしが自分だとわかった。

「俺が…創つた?…え?…何でだ!?俺は…」

『死んだよ。』

三章 現実

『自分でもわかってんだろ。』

また声がした。

「何で…どうして…」

『津波に巻き込まれて圧死。諦める。どうあがいてももう意味がない。』

「嘘だ!俺はまだ死んでなんか…」

『うるせえ!現実をみやがれ!どうせ人は死ぬんだ!早いか遅いかの違いだ!おめえもわかってんだろ!』

『それでも信用出来ねえならこれをみやがれ！』
いきなり周りが人で溢れかえった。そして、実家にもどると母親が泣きながら電話をかけている。テレビを見ると、「繰り返しです。関東地方に地震と津波が襲いました。震源地付近では震度？弱、死者は推定で八百万人にもものぼるとみられています。では被害状況をご覧ください…」

エピソード そばにいる

男は母親にふれようとした。しかし、通り抜けその瞬間、自分が死んだというのを理解した

男はその場にくずれ泣き出した。

となりで母親は自分の名前を叫んでいる。隣に、すぐ隣に息子の魂があるのに…

- - AbtpgA7H
Content-Type: text/html; charset="iso-2022-jp"
Content-Transfer-Encoding: quoted-printable

1B\$B%W%m%1"3Dj\$G\$O\$J\$\$!#

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2573i/>

あの世

2010年10月11日13時44分発行